

資料 3

環境モニタリングの結果及び令和6年度下半期の状況一覧表

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準値超過地点数					令和6年度下半期の状況	
					～令和5年度	令和6年度上半期	令和6年度下半期	～令和5年度(最大年度)	令和6年度上半期	令和6年度下半期	基準値等	単位		
2.1生活環境保全上の支援の有無の把握	大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン 塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	大気環境基準 指針値	2地点	なし	-	なし	-	-	-	物質毎	μg/m ³ (ng/m ³ 水銀)	全ての項目で基準等に適合していた。	
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		なし	-	なし	-	-	-	物質毎	ppm (mg/m ³ メタン)		
	硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	なし	なし	0.005未満～1.105	H20	0.005未満	0.005未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
	放流水水質調査	○年1回調査項目 鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ほう素及びその化合物、ふつ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質質量(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉛油類含有量)、フルール含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類 ○年4回調査項目 1,4-ジオキサン、pH	放流水基準	1地点	大腸菌群数	なし	なし	0.1～16300	H20	120	-	3000以下	個/cm ³	全ての項目で基準等に適合していた。
	河川水水質調査	○年1回調査項目 鉛、砒素、ふつ素、ほう素、大腸菌数 ○年4回調査項目 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量	環境基準 上下流の比較	2地点	BOD、SS、溶存酸素量	BOD、大腸菌数	BOD	上下流で同様の値を示す	-	BOD 3.2～10 大腸菌数 280～410	上流側 BOD 1.5～2.4 下流側 BOD 1.4～2.4	BOD 2以下 大腸菌数 300以下	BOD mg/L 大腸菌数 CFU/100mL	BODは基準等を超過したが、上下流で同程度の値を示した。処分場からの放流水が河川水に与える影響はないものと考えられた。
	バイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	2地点	AOD値	-	なし	上流、下流ともに 170～1000	H21	-	上下流で同程度の値を示す	400以上	%	AOD値が400%以上であり、上下流で同程度の値を示した。
2.2浸透水等の地下水の拡散又はそのおそれの把握	浸透水水質調査	○年1回調査項目 総水銀、六価クロム、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ボリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエタン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオヘンカルプ、セレン ○年4回調査項目 鉛、砒素、1,4-ジオキサン、BOD、	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	超過なし	鉛	0.002未満～0.060(9地点)	H25	0.002未満～0.005	0.002未満～0.011(1地点)	0.01以下	mg/L	H16-11で鉛、H16-13で砒素、H16-13等でBODが一部の井戸で基準等を超過した。鉛及び砒素については横ばい傾向であった。BODについては概ね横ばい傾向だが、緩やかな上昇傾向を示す地点も確認された。
		砒素	超過なし	砒素	0.001未満～0.069(3地点)	H26	0.001未満～0.009	0.001未満～0.015(1地点)	0.01以下					
		トリクロロエチレン	超過なし	-	0.002未満～0.019(1地点)	H16	0.001未満	-	0.01以下					
		ベンゼン	超過なし	-	0.001未満～0.018(4地点)	H23	0.001未満～0.002	-	0.01以下					
		1,4-ジオキサン	超過なし	超過なし	0.005未満～0.31(5地点)	H24	0.005未満～0.037	0.005未満～0.035	0.05以下					
		塩化ビニルモノマー	超過なし	-	0.0002未満～0.012(1地点)	H26	0.0002未満	-	0.002以下					
		BOD	BOD	BOD	1.2～160(11地点)	H16	3.9～28(4地点)	10～47(7地点)	20以下					
	地下水水質調査	ほう素、ふつ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	11地点	ほう素	ほう素	ほう素	0.02～31(9地点)	H25	0.03～3.3(4地点)	0.03～9.1(5地点)	1以下	mg/L	H16-13等ではう素、H16-11等でふつ素が基準等を超過した。変動はみられるものの、横ばいもしくは緩やかな低下傾向であった。
		ふつ素	ふつ素	ふつ素	0.08未満～5.6(9地点)	H16	0.10～2.1(7地点)	0.11～2.2(7地点)	0.8以下					
	ダイオキシン類	環境基準	ダイオキシン類	ダイオキシン類	超過なし	0.032～110(7地点)	H22	0.025～3.3(1地点)	0.028～0.16	1以下	pg-TEQ/L	基準に適合していた。		
	地下水水質調査	鉛、砒素、1,4-ジオキサン、BOD	地下水等 検査項目基準	10地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.083(6地点)	H19	0.002未満～0.006	0.002未満～0.003	0.01以下	mg/L	H17-19で砒素が基準等を超過したが、埋立区域の上流側に位置しているため、自然由来である可能性が考えられた。また、H26-2でBODが基準等を超過したが、これまでの結果から横ばい傾向であった。
		砒素	砒素	砒素	0.001未満～0.068(1地点)	H27	0.001未満～0.012(1地点)	0.001未満～0.020(1地点)	0.01以下					
		BOD	超過なし	BOD	0.5未満～27(3地点)	H30	1.4～13	1.2～21(1地点)	20以下					
	ほう素、ふつ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	ダイオキシン類	超過なし	超過なし	-	-	-	-	物質毎	mg/L	基準に適合していた。		
	ダイオキシン類	環境基準	ダイオキシン類	超過なし	超過なし	0.030～3.4(3地点)	R4	0.033～0.40	0.026～0.50	1以下	pg-TEQ/L	基準に適合していた。		
調査目的	調査名	調査項目	基準	調査地点数	令和6年度下半期の状況									凡例
2.3処分場の状況の把握	発生ガス調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	17地点	発生ガス濃度: 硫化水素濃度は横ばい傾向を示していた。メタン濃度は変動のある地点もあるが、これまでの変動の範囲内で推移していた。 発生ガス量: 全地点で横ばいから低下の傾向が見られるが、調査地点のうち12地点ではガスの発生が非常に少なかった。									地下水等検査項目基準を超過したもの
	地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帶水域の温度	-	10地点	横ばいもしくは低下傾向で推移しており、処分場外との差は小さくなっている。 No.5地点の浅部で令和4年12月～令和5年9月頃に一時的に温度が高い状況が確認されたが、今回の調査期間では令和4年12月以前と同程度の温度が確認された。									環境基準を超過したもの
	地下水位調査	地下水位、降雨量	-	21地点	変動の幅はこれまでと同様であった。									目標値を超過したもの
	多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	定量下限値未満で変化なし。									指針値を超過したもの
	地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	定量下限値未満で変化なし。									赤字表記 (〇地点) 基準・目標値等を超過する値 基準等を超過した地点数